

〔バチルス ズブチリス水和剤〕

ボトキラー水和剤

有効成分：バチルス ズブチリス芽胞…… 1×10^{11} cfu/g

性 状：類白色水和性粉末
毒 性：－
危 険 物：－
有効年限：3年
包 装：100g×50袋
500g×10袋

ボトキラーは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

〔特長〕

- 野菜類・花き類の灰色かび病、うどんこ病のほか、ぶどう、かんきつ、マンゴーの灰色かび病、なしの黒星病、稲のいもち病に対して防除（予防）効果を発揮する。
- 発病前に散布することで、本剤の有効成分が作物体上に病原菌より先に住み着き、生息場所と栄養分を先に占有することで、病原菌の感染による発病を予防する。
- 薬剤抵抗性発達の可能性が低く、様々な薬剤、受粉蜂、天敵昆虫等と併用が可能。
- 暖房機のダクトの風を利用し、本剤を粉体のまま散布する「ダクト内投入」が可能。水を使わないことで湿度が上昇しにくく、散布も極めて省力的に行える。
- 更に「ダクト内投入」は、自動投入機の「きつつき君」を併せて使用すると、大幅な労力削減が可能。

〔適用病害と使用方法〕

散布

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	バチルス ズブチリスを含む農薬の総使用回数
野菜類	灰色かび病 うどんこ病	1000倍	150～300 ℓ ／10a	発病前～ 発病初期	－	散布	－
ぶどう	灰色かび病		200～700 ℓ ／10a	開花期～ 幼果期			
かんきつ マンゴー				発病前～ 発病初期			
なし	黒星病		200～300 ℓ ／10a	穂ばらみ期～ 刈取前			

常温煙霧

作物名	適用病害名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	バチルス ズブチリスを含む農薬の総使用回数
野菜類	灰色かび病	300g ／10a	6～10 ℓ ／10a	発病前～ 発病初期	－	常温煙霧	－

ダクト内投入

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	バチルス・ズブチリスを含む農薬の総使用回数
野菜類 (トマトを除く)	うどんこ病	15g/10a/日	発病前～ 発病初期	-	ダクト内投入	-
	灰色かび病	10～15g/10a/日				
トマト	うどんこ病	15g/10a/日				
		7.5～15g/10a/日				
マンゴー	灰色かび病	10g/10a/日				
かんきつ ぶどう		15g/10a/日				
花き類・ 観葉植物		10～15g/10a/日				

〔ダクト内投入とは〕

- 1日あたり10～15gの本剤を水に希釈せず粉体のまま、暖房機の送風用ダクトの風を利用してハウス内全体に飛散・循環させる使用方法。
- 投入方法が短時間かつ簡便であるため、防除のタイミングを逃さない。
- 水を使用しない散布方法なので、ハウス内の湿度が上昇しにくく、天候に左右されず散布が可能。また、天敵昆虫との併用が容易。
- 毎日継続してダクト内投入を行うことで、本剤の有効成分であるバチルス菌を圃場全体にムラなく、隅々まで定着させ、発病を予防するとともに、灰色かび病が出にくいハウス環境へと改善・維持していく。

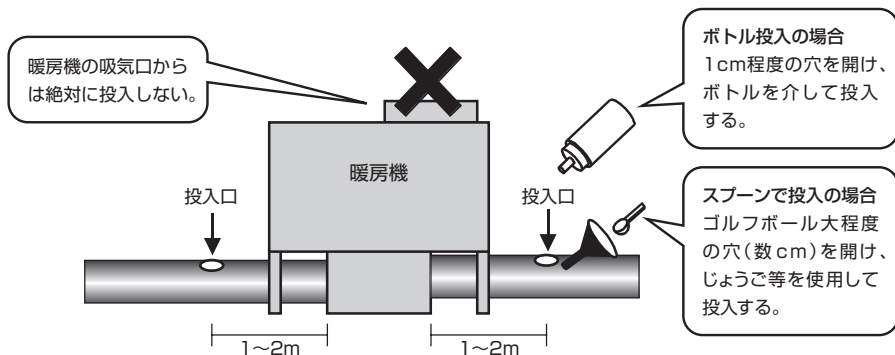
〔ダクト内投入の準備と実施手順〕

準備

- ①暖房機のすべての親ダクトに投入口を設置する。投入口は、子ダクトに分岐する前、なるべく暖房機に近いところ（約1～2m付近の部分）に設置する。
- ②投入にはボトルやスプーンを用いる方法があるほか、自動投入機「きつつき君」を使用すると、自動投入が可能（「きつつき君」を参照ください）。

手順

- ①ハウス内の作業終了後、暖房機が停止していることを確認する。
- ②投入するボトキラー水和剤を予め秤量する。投入量は1日あたり10～15g/10a（対象作物と病害により異なるため、適用表をよく読む）。投入口が複数ある場合には、投入量合計が10～15g/10aとなるように分けて投入する。
- ③ボトキラー水和剤を投入後、暖房機のスイッチを入れる。毎日最低2時間以上は送風させる。
- ④翌朝、入室する際は、天窓を開けるなど、ハウス内を十分換気してから入室する。



〔ダクト内投入を効果的に行うポイント〕

- ダクト内投入は発病前から開始する。開始時点で発病が確認される場合には、化学農薬等で発病を抑えてから開始する。また、発病が認められた場合には耕種的防除や化学薬剤などで対処する。
- ダクト内投入は暖房機稼働期間中は毎日、継続して投入する。
- 送風によりボトキラーが温室内に均一に飛散するため、1日当たりの送風回数は多めに設定する。また、効率的に送風されるよう、子ダクトを各畝に配置するなど見直す。
- 気温の上昇等により暖房機が稼働しない、もしくは稼働時間が短くなった場合には、手動で送風・投入を継続する、もしくは、インプレッションクリア等の散布剤の使用を推奨する。

⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤の有効成分は生菌であるので、散布液調製後はできるだけ速やかに散布する。また、開封後は密封して保管し、できるだけ早く使い切る。
- 本剤は保護作用が強く予防効果が主体なので、散布処理を行う場合には発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。なお、生育の早い作物に使用する場合には、散布頻度を高める。
- 低温条件下（10℃以下）では効果が劣るので、使用を避ける。
- 本剤は他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので、注意する。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節する。
- 本剤の使用により葉及び果実などに汚れが生ずる恐れがあるので、収穫期の使用には気を付ける。
- 常温煙霧用として使用する場合は、下記の注意を守る。
 1. 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。
 2. 作業は密閉できる環境で行い、作業終了後6時間以上密閉する。
- ダクト内へ投入する場合は、下記の点に留意する。
 1. 1ヶ月当たり300～450g/10aになるよう、暖房機などのダクト取り付け口付近からダクト内に投入する。
 2. 暖房機などが数時間以上運転される条件下で使用する。
- 稲のいもち病を対象とする場合、穂ばらみ期に散布した後、7～10日間隔で計2回以上散布する。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等の指導を受ける。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等の指導を受ける。

安全使用上の注意



●使用の際は農薬用マスク、手袋、保護メガネ、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換する。

●作業時に着用していた衣服等は、他のものとは分けて洗濯する。



●かぶれやすい体質の人は作業に従事しないように、施用した作物等との接触を避ける。

●夏期高温時の使用を避ける。

●常温煙霧中およびダクトによる散布中は、ハウス内へ入らない。また、常温煙霧およびダクトによる散布終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。

●ダクトによる散布の際は、送風停止中に本剤をダクト内に投入する。

●ダクトにより散布後にハウス内で作業する際は、送風機を作動させない。

[保管]：直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

農薬登録(登録番号)：株式会社エス・ディー・エス バイオテック (20080)

販売：アグロ カネショウ株式会社、日本農薬株式会社、協友アグリ株式会社